

大安中学校の生徒さんへ

保護者の皆様へ

大安中学校の先生方へ

前略

3月に亡くなった小林昴の父です。昴の葬儀の際は本当にたくさんの真心をいただき、ありがとうございました。大安中学校の皆さん、もう新しいクラスには慣れましたか。新しい担任の先生にも慣れたころでしょうか。

さて、来週の授業で昴の交通事故死をとりあげ、生徒の皆さんに命の尊さを学ぶ機会があると聞きました。昴の交通事故死の記憶が皆さんから薄れるころだとは思いますが、命の授業に際してぜひ皆さんに伝えたいことがあり、追加の手紙を書かせていただくことにしました。

私が皆さんに伝えたいこと、その一つは、車は本当に怖い、そして皆さんの前を走る車の中には稀に異常な車がいる、だから車には本当に気をつけてほしいということです。

昴の交通事故は、交差点を自転車で横断しようとした昴に左側から走行してきた車が突っ込んだものです。加害者の車のフロントガラスにはドライブレコーダが付いていて、先日私はその動画を見る機会を得ました。昴が撥ね

られる瞬間の動画など見たくはありませんでしたが、事故の真実を知るため、私は勇気を振り絞って動画を見ました。私が見た動画は、それはそれはショッキングなものでした。警察の方から聞きましたが、加害者の男は時速66キロで走っていたそうです。動画の中の加害者からは、交差点の30メートル以上手前で自転車に乗って交差点を渡り始める昴の姿を真正面に確認することができました。しかし、加害者は一切ブレーキをかけることなく、また一切昴を避けるハンドル操作をすることなく、66キロのスピードのまま、まっすぐに昴に突っ込みました。何と異常なことでしょうか。昴は自分の身に迫る車に気づき、恐怖のあまり車を凝視したまま固まっていました。

そんな異常な車が、あの日たまたま昴が通学する時間に昴の前を通過してしまった。そして昴は撥ねられ、死んでしまった。これは決して他人事ではありません。同じような車が明日はあなたの前に現れるかもしれません。車は恐ろしい凶器です。だから、あなたの尊い命を落とさないために、車には本当に気をつけてください。

皆さんに伝えたいことのもう一つは、我が子を亡くした親の悲しみがいかに深くつらいものであるかということです。昴の死から2ヶ月以上が経ちましたが、昴の生前の姿を思い出しては次々と新しい悲しみが私を襲ってきて、日に日に悲しみは深まる一方です。

私はどんなにつらいことがあっても、家族を守るために耐え、必死に働き、

できる限り家族との時間を大切にしてきました。葬儀のときも話しましたが、昂は私にとって本当にかわいい五男坊の末っ子でした。目に入れても痛くないとはまさにこのことだと思いました。本当に幸せな13年間でした。できることなら、この先もずっと昂と幸せな生活を送りたかったですし、昂が成長する姿を見届けたかった。でも、昂は私の前から姿を消してしまいました。私は昂を含め我が子全員に全力で愛情を注いできたとの自信があります。でも、昂がこの世を去ることがわかっていたら、もっともっとかわいがっていたらよかったと後悔する気持ちも心の片隅にあります。本当に悲しい。私も妻も決して悲しみは尽きません。しかし、私たちは悲しみを抱えながらも前を向き、一生懸命生きていこうと励まし合っています。昂もきっと、前を向いて生きる私たちの姿を望んでいるに違いないと思います。

親の我が子に対する愛情は深く、我が子の成長を願う思いは真剣です。皆さんは思春期を迎え、ご両親に反発する気持ちが芽生えている生徒さんがいらっしゃるかもしれませんが、この時期を過ぎて皆さんが大人になり、結婚して我が子を授かったとき、きっと親の気持ちがわかると思います。親が我が子を思うその愛情は他の何よりも深い。そのことを昂の死で実感しましたし、だからこそ、昂に対して恥ずかしくない生き方をしたい、そう思えるようになってきました。皆さんには、絶対に自分の命を大切にしてもらいたいですし、一生懸命に生きてほしい。そして、くれぐれもご両親を大切にしてい

ほしい。それが私の切なる願いです。

皆さんには、この機会に命の尊さについて真剣に考えていただきたいと  
思います。そして立派な大人へと成長されることを願っています。昂が生きたく  
ても生きられなかった分、皆さんは大きな夢を持って自分らしく生きてく  
ださい。それが私たち夫婦と昂の願いです。

草々

平成29年5月25日

小林 昌宏・久里子